

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(特別支援学校玉城わかば学園)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿	○子どもたちが自信を持ち、社会参画できる力を育む学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)
	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)
ありたい教職員の姿	○よく学び、よく遊び、社会参画を目指して主体的に取り組む子ども ○自他の命を大切にし、互いを尊重しながらいきいきと活動する子ども
	○特別支援教育に関する専門性の向上に努め、保護者・地域・関係機関と連携・協働して子どものニーズや特性に応じた教育活動や地域支援を推進できる教職員 ○高い人権感覚や安全意識を持ち、児童生徒・保護者・地域から信頼される教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><児童生徒></p> <p>○卒業後に必要な、自立や社会参画につながる確かな力を育ててほしい。</p> <p><保護者></p> <p>○子どもたち一人ひとりの育った背景を理解し、個に応じた教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行ってほしい。</p> <p><地域></p> <p>○地域における特別支援教育の充実と推進のため、常にセンター的機能を発揮してほしい。</p>	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><保護者></p> <p>○子どもたちを理解し、個に応じた適切な指導及び必要な支援を行ってほしい。</p> <p>○子どもたちの一番の理解者でいてほしい。</p> <p><学校等の各機関></p> <p>○特別な支援が必要な子どもたちへの指導について、支援、助言、情報発信をしてほしい。</p>	<p><保護者></p> <p>○学校あるいは関係機関と連携し、密接な協力関係をもって、家庭における指導を進めてほしい。</p> <p><学校等の各機関></p> <p>○特別な支援が必要な子どもたちへの全校的な支援体制を確立してほしい。</p> <p>○指導する教職員の専門性を向上させ、発達障がいを含む知的障がいのある児童生徒の指導を充実してほしい。</p>
(3)前年度の学校関係者評価など	<p>○教育課程の編成において「各教科等を合わせた指導」が中心となっており、教科を意識した授業づくりに課題がある。教科のなかでも、国語と算数・数学の力が大事である。国語は人とのやりとり、算数・数学は物とのやりとりを培っていくものである。教科別の学習充実を図るには、教育課程の編成を早急に見直す必要がある。</p> <p>○人権という視点では、「障害者虐待」などの研修に取り組んでほしい。</p> <p>○小中学校への特別支援教育コーディネーターの巡回相談では、具体的で専門的なアドバイスは、小中学校にとって非常に心強い。地域の教職員が参加する研修会を充実したものとするためには、地域の小中学校の先生の困りごとを把握する必要がある。特別支援教育に携わる教職員だけでなく、幅広い参加の募り方や高等学校支援も含め検討する必要がある。</p>	

(4)現状と課題	教育活動	<p><個別最適な学びの充実と教育課程の整備></p> <p>○教職員対象の研修会により、児童生徒の学習目標や内容が導き出されることの共通の理解を持つことができた。合わせて、「教科を合わせる」ことの意味や「教科」の視点を大切にすることの理解が進んだ。しかしながら、教科の視点にたった学習内容の実施や教育課程の見直しをさらに進める必要がある。</p> <p><キャリア教育の充実></p> <p>○高等部の体験実習において、生徒は就労の厳しさや社会人の方との接し方を実践的に学ぶことにつながっている。しかし、一般就労率は卒業生全体の21%であった。就労に結びつく学習内容の設定について、社会情勢や先進校の動向をふまえた検討が必要である。また、小学部の保護者に学校卒業後のことについて積極的に考えてもらう機会を設定するなど、組織全体でキャリア教育を進める必要がある。</p> <p><自己肯定感を涵養する教育の推進></p> <p>○各学部では児童生徒が輝けるよう工夫した行事を設定した。引き続き、実施後に児童生徒の様子や表情を読み取るとともに、感想を丁寧に聞き取っていききたい。</p> <p>○人権を守るための行動力についての学習を具体的に進めるため、学習内容を明確にした人権教育カリキュラムの作成が必要である。</p> <p>○性に関する学習を系統的・計画的に進めるため、また児童生徒が学習した内容や理解度を保護者へ伝えるためにも、年間指導計画が必要である。</p>
	学校運営等	<p><信頼される学校づくり></p> <p>○保護者アンケート(学校評価)では、多くの保護者より学校の教育内容や支援体制について高い評価をいただいたが、教員不足について安全面や学習指導において不安があるともご意見をいただいている。引き続き、保護者や地域から信頼され、安全安心な学校づくりを進める。</p> <p>○信頼される学校づくりを進めるため、管理職のリーダーシップのもと定期的なコンプライアンス研修等に取り組んでいる。学校からの情報発信(ホームページやたよりなど)は、タイミングを逃さず旬な時期に発信できるよう見通しを持って計画的に進める必要がある。</p> <p><安全・安心な学校づくり></p> <p>○玉城町社会福祉協議会と協力して図上訓練を実施し、避難所運営について具体的・実践的な体験ができ危機意識を高めることにつながった。災害時引き渡し訓練では、災害時に迎えができない家庭を想定したサポート体制(宿泊の準備など)を整える必要があることが確認できた。引き続き、地域と連携した取組を進める。高等部生徒を対象とした防犯教育や消費者教育では、担当者が確実に進められるよう年間指導計画が必要である。</p> <p><センター的機能の充実></p> <p>○地域の小中学校より通常の学級の先生方に授業のユニバーサルデザインについて研修を開催してほしいなどの依頼がある。地域のニーズや状況を確認しながら対応する必要がある。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p><1 学習指導要領の指導内容の着実な実施></p> <p>学習指導要領に基づく指導内容の着実な実施に向けて、各教科の内容の指導を充実させる必要がある。そのため、教職員研修を通じて学習指導要領における各段階及び各教科の目標を確認するとともに学びの連続性を意識した年間指導計画の見直しを行う。また、「知的障害者用教科書」を活用した指導の実施に取り組む。</p> <p>教育課程の編成では、教科別の学習内容を意識した教育課程の早期見直しを行う。</p> <p><2 自立と社会参画を見据えた教育の充実></p> <p>自立と社会参画を見据えた教育の充実を図るため、組織的かつ計画的なキャリア教育を推進する。具体的には、職業教育の在り方について検討するための教職員研修を実</p>
------	---

	<p>施するとともに、小学部及び中学部の保護者を対象としたキャリア教育に関する説明会を開催する。先進校の視察を行い、他校の取組を参考にしながら高等部の職業教育の充実を図る。</p> <p>交流及び共同学習の推進では、副次的な籍に関する理解を促進するため、教職員向けの研修会や保護者へ周知する機会を設ける。全ての児童生徒が社会に参画できる力を育むため、学習目的を明確にして進める。</p> <p><3 一人ひとりの自己肯定感を涵養する教育の推進></p> <p>一人ひとりの自己肯定感を涵養する教育の推進として、児童生徒が自分の良さや可能性を認識できるよう各学部行事の充実を図り、具体的な目標を設定し、適切な評価を行うことが必要である。また、行事实施後には児童生徒が自身のがんばりや達成できたことについて振り返りを実施する。さらに、多様な仲間との協同を促進するために、行事などにおいて役割や係分担を意図的に設定する。</p> <p><4 人権教育の推進></p> <p>人権カリキュラムの見直しを行うとともにカリキュラムを意識した学習を進める。高等部生徒の実践行動力の育成に向け、子どもたちが人権について考える学習を推進し、実践的な行動ができる力を育成する。いじめ防止委員会と連携し、「いじめの認知」に関する研修会やいじめ防止強化月間における高等部生徒の主体的な取組を推進する。教職員研修として虐待に気づくためのチェックリストや、児童生徒への関わり方についての研修を行い、教職員の指導支援を振り返る機会とする。</p>
<p>学校運営等</p>	<p><1 児童生徒の安全・安心の確保></p> <p>防災教育及び防災対策を推進するため、防災ハンドブック及び防災ノートを活用した防災学習を確実にを行い、児童生徒の地震や風水害に備えた知識の育成を図る。国や県の通知を意識した危機管理マニュアルの点検や見直しを行う。</p> <p>防犯教育を推進するため計画的に防犯教育を実施する必要がある。また熱中症予防や水難、落雷、交通事故等の防止に向け、児童生徒への呼びかけや啓発を実施することで、児童生徒の安全を確保する。</p> <p>教職員研修では、発作時などの緊急時対応訓練を定期的に行い、教職員の対応力を高める。</p> <p>食育に関する指導を充実させるため給食週間の取組を推進する。また、命を大切にす教育、喫煙、薬物防止、飲酒、がん予防、早寝、早起き、朝ごはんの重要性など健康や性に関する指導では、年間指導計画を確認して計画的に進める。</p> <p><2 特別支援学校センター的機能の充実></p> <p>南勢地域における特別支援教育を推進するため、地域のニーズに応じた内容の公開研修会を実施する。校内支援体制の構築を進めるため、現状の把握を行い校内支援の手順(フローチャート)を整理する。</p> <p><3 学びを支える教育環境の整備></p> <p>不祥事根絶研修としてミーティングやコンプライアンス研修を実施し、教職員の意識を高める必要がある。行事の精選や不要な資料作成の洗い出しなどを行い、教職員の働き方改革をさらに推し進める。</p> <p>保護者の意見を把握するため保護者アンケートを定期的を実施する。みえてきた課題を整理し、保護者と共有するPDCAサイクルを実践することで、保護者の学校参画を推進する。引き続き、学校ホームページ等からの情報発信を強化する。地域イベントへの参加を図り、地域とのつながりを深める。</p> <p>肢体不自由教育部門設置に向け児童生徒が安心して移行できるよう、県教育委員会と度会特別支援学校と連携し、計画的に設置業務を進める。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>1 学習指導要領における指導内容の着実な実施</p>	<p><1 学習指導要領における指導内容の着実な実施> (1)各教科の内容の指導の充実 (2)教育課程の編成検討 【活動指標】 ○学習指導要領の「段階」理解促進研修会を実施(1回) ○国語・算数数学の学びのラーニングマップ理解促進研修会の実施(1回) ○各教科の年間指導計画の見直しワーキングの実施(1回) ○「知的障害者教科書」の内容理解促進研修会の実施(1回) 【成果指標】 ○「知的障害者用教科書」を活用した指導の実施実施した教職員(80%以上) ○教育課程の編成(2学期までに素案提案) ○教科別の学習への転換が求められていることの「理解が深まった」と回答した教職員の割合(80%以上)</p>	<p>【活動指標】:達成 ・理解促進研修会 「段階」:1回実施 「ラーニングマップ」:1回実施 ・ワーキング:1回実施 ・教科書促進研修会:1回実施 【成果指標】:達成 ・教科書を活用した教職員:100% ・教育課程の見直し:済 ・教職員の割合:100%</p>	<p>◎</p>
<p>2 自立と社会参画を見据えた教育の充実</p>	<p><2 自立と社会参画を見据えた教育の充実> (1)組織的・計画的なキャリア教育の推進 (2)交流学習の推進 【活動指標】 ○キャリア教育研修会の実施(1回) ○小学部中学部の保護者を対象としたキャリア教育についての説明会を実施(1回) ○先進校視察の実施(1回) ○副次的な籍についての理解促進研修会を実施(1回) ○保護者へ副次的な籍についての啓発(たより等1回) 【成果指標】 ○「障害者雇用」の実情が「理解できた」と回答した教職員の割合(80%以上) ○小学部からの計画的なキャリア教育の大切さが「理解できた」と回答した教職員の割合(80%以上) ○副次的な籍について「理解できた」と回答した教職員の割合(80%以上)</p>	<p>【活動指標】:達成 ・研修会:1回実施 ・保護者説明会:1回実施 ・先進校視察:1回実施 ・研修会:1回実施 ・保護者啓発:1回実施 【成果指標】:達成 ・「障害者雇用」理解できた教職員の割合:100% ・キャリア教育の大切さが理解できた教職員の割合:100% ・副次的な籍を理解できた教職員の割合:93%</p>	<p></p>
<p>3 一人ひとりの自己肯定感を涵養する教育の推進</p>	<p><3 一人ひとりの自己肯定感を涵養する教育の推進> (1)児童生徒が自分のよさや可能性の認識 (2)多様な仲間との協同 【活動指標】 ○各学部行事において児童生徒が達成感を味わえる具体的目標評価の設定(2回) ○各学部において行事实施後の具体的目標評価の振り返りを実施(2回) ○自分の良さを確認するとともに友だちを認める人権学習の実施(中学部 高等部 1回) 【成果指標】</p>	<p>【活動指標】:達成 ・目標設定:2回実施 ・振り返り設定:2回実施 ・中学部:1回実施 ・高等部:1回実施 【成果指標】:達成</p>	<p>◎</p>

<p>4 人権教育の推進</p>	<p>○行事後のアンケートや感想において、「やりきった」、「がんばった」、「仲間と協力した」と前向きな回答や感想を述べた児童生徒の割合(各学部80%以上)</p> <p>○学習後に「自分にはよいところがある」と感想や思いを述べた中学部生徒及び高等部生徒の割合(80%以上)</p> <p><4 人権教育の推進> (1)人権カリキュラムの見直し (2)いじめ防止委員会との連携した教職員研修の実施 (3)実践行動力の育成</p> <p>【活動指標】 ○人権カリキュラムの作成(1学期) ○人権カリキュラムの学習内容を試行実施(1回) ○いじめ問題、認知の研修会の実施(1回) ○虐待気づきリストや虐待防止研修会の実施(1回)</p> <p>【成果指標】 ○困った場面において、「相談する」と回答した高等部生徒の割合(80%以上) ○いじめ防止強化月間の取組で自主的行動(メッセージカードへ記入など)をとった高等部生徒の割合(80%以上)</p>	<p>・前向きな回答の児童生徒の割合</p> <p>運動会 わかば祭 小学部:80% 80% 中学部:100% 100% 高等部:94% 97%</p> <p>・「よいところがあると」回答した児童生徒の割合 中学部:94.7% 高等部:93.3%</p> <p>【活動指標】:達成 ・カリキュラム作成:作成済 ・学習の実施:1回実施 ・認知研修会:1回実施 ・虐待防止研修会:1回実施</p> <p>【成果指標】:達成 ・「相談する」と回答した高等部生徒の割合:94% ・自主的行動の高等部生徒の割合:100%</p>
------------------	--	--

改善課題

<1 学習指導要領の指導内容の着実な実施について>

- 著作教科書の活用により、児童生徒の実態に応じた指導の重要性について、教員の共通理解が進み、授業づくりを見直す取組が一部の教員にみられるようになった。
- 教科書解説に記載された指導例や関連情報が、教材研究や授業準備の負担軽減につながった。
- 校内で教科書を活用した打合せが少しずつ増え、教育課程や時間割の見直しにつながった。
- 著作教科書の活用が一部の教員にとどまっている現状をふまえ、具体的な授業実践の共有の場をもち、教員間での活用の広がりや定着を図る。
- 教科書解説の活用方法が十分に浸透していないため、使い方の理解を促進させる。
- 年間指導計画から授業実践への見通しを明確にするため、「単元年間シート」を試行的に活用し、授業計画の流れの「見える化」に取り組む。
- 新しい教育課程と時間割での実践を積み重ね、引き続き授業改善を図る。

<2 自立と社会参画を見据えた教育の充実について>

- 「障害者雇用」の現状についての理解が深まり、進路指導で大切にする視点を学校全体で再確認することができた。
- 進路指導にかかる先進校の視察により、高等部職業教育の授業内容に関する具体的なヒントを得られた。
- 小学部において校内及び相手校との丁寧な事前の打合せを重ねたことで、授業者のねらいをふまえた学校間交流を実現させることができた。また、双方の児童にとって学びあえる交流学习となった。
- 交流及び共同学習「副次的な籍」の説明会を実施することで、教職員の一定の理解が進んだ。
- 校内の教職員に玉城わかば学園の進路指導の流れを浸透させるため、引き続き研修を行う。あわせて小学部、中学部、高等部の進路指導のつながりや、中学部と高等部の学習内容や実習のねらいを整理する必要がある。
- 地域の小学校、中学校、高等学校の教職員に対しても同様に玉城わかば学園卒業後の姿や進路指導の流れについて説明する場を持つ。
- 学校間交流の目的を明確にし、授業に参加する全教員が授業者のねらいや意図を理解したうえで指導支援を行う。また全学部において、双方の児童生徒にとって「学びあい」をめざした交流学习となるよ

う実践を積み重ねる。

- 「副次的な籍」を置く市町が増えてきたことをふまえ、小学部、中学部の居住地校交流では間接交流の実施の検討など、より地域とのつながりを意識した交流及び共同学習を目指す。

<3 一人ひとりの自己肯定感を涵養する教育の推進について>

○運動会、文化祭の行事について児童生徒の振り返りを丁寧に行ったことで、児童生徒が自分の努力や成長を実感することができ、自己肯定感の向上につながった。

○人権学習を通じて、自分の良さを確認できる機会を持つことができた。

- 引き続き、振り返り活動を充実させ、個々の良さを認識できる場面を増やすことで自己肯定感を育む。

<4 人権教育の推進について>

○人権カリキュラムを作成し、体系的な指導の基盤を整えることができた。

○「障がい者虐待研修」に関する研修により、児童生徒へのかかわり方を客観的に振り返ることができた。

- 引き続き、教育活動全体を通じ、作成した人権カリキュラムに基づいた取組を継続する。特に、「困った場面で適切に相談する力」をより確かなものとしていくため、今年度実施することができなかった「差別をなくすために自分にできること」、「実践行動につなげるための人権学習」、「人権課題を解決するために必要な知識を身につける」などの学習に取り組むとともに内容の充実を図る。

- 引き続き、児童生徒への関わり方についての教職員研修の機会を持つ。

(2)学校運営等

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1 児童生徒の安全・安心の確保	<p><1 児童生徒の安全・安心の確保></p> <p>(1)防災教育及び防災対策の推進</p> <p>(2)防犯教育の推進</p> <p>(3)教職員研修の実施</p> <p>(4)食育に関する指導の充実</p> <p>(5)健康や性に関する指導の充実</p> <p>【活動指標】</p> <p>○防災ハンドブック及び防災ノートを活用した防災学習(地震・風水害)の実施(年2回)</p> <p>○国通知のポイント視点を踏まえた危機管理マニュアルの点検・見直しの実施(2学期までに実施)</p> <p>○学期はじめの交通指導の実施(年3回)</p> <p>○国民安全の日を意識した防犯指導の実施(1回)</p> <p>○喫煙、薬物、飲酒、がんなどの健康学習の実施(高等部1回)</p> <p>○発作時などの緊急時対応訓練の実施(1回)</p> <p>○児童生徒が主体的に取り組む給食週間の実施(1回)</p> <p>○早寝、早起き、朝ごはんデーの実施(3回)</p> <p>○自他の命の大切さを学ぶ学習の実施(中高1回)</p> <p>【成果指標】</p> <p>○防災学習後に「自分の命は自分で守る」と回答した高等部生徒の割合(80%以上)</p> <p>○取組後に「朝ごはんやバランスのとれた食生活が大切である」と回答した高等部生徒の割合(80%以上)</p> <p>○命の大切さを学ぶ学習後に「自分も友だちも大切な存在である」と回答した中学部生徒及び高等部生徒の割合(80%以上)</p>	<p>【活動指標】:達成</p> <p>・学習の実施:2回実施</p> <p>・見直し:済</p> <p>・交通指導:3回実施</p> <p>・防犯指導:1回実施</p> <p>・健康学習:1回実施</p> <p>・訓練の実施:1回以上実施</p> <p>・給食週間の実施:1回実施</p> <p>・早寝早起き朝ごはんデーの実施:3回実施</p> <p>・命の大切さを学ぶ学習の実施:1回以上実施</p> <p>【成果指標】:達成</p> <p>・防災 高等部生徒の割合:96%</p> <p>・食生活 高等部生徒の割合:99%</p> <p>・大切な存在 中学部生徒の割合:97%</p> <p>高等部生徒の割合:96%</p>	※

<p>2 特別支援学校センター的機能の充実</p>	<p><2 特別支援学校センター的機能の充実> (1)南勢地域における特別支援教育の推進 (2)校内支援に係る体制整備 【活動指標】 ○地域公開研修会の実施(1回) ○校内児童生徒において外部の関係機関と連携した支援についての状況把握及び今後の対応案作成 【成果指標】 ○地域公開研修会後のアンケートにおいて「研修内容が明日からの実践につながった」と回答した参加者の割合(80%以上)</p>	<p>【活動指標】:達成 ・研修会:1回実施 ・支援状況把握:済 ・対応案作成:済 【成果指標】:達成 ・つながったと回答した参加者の割合:98.7%</p>	
<p>3 学びを支える教育環境の整備</p>	<p><3 学びを支える教育環境の整備> (1)教職員の資質向上及び不祥事の根絶(教職員研修) (2)教職員の働き方改革を推進 (3)保護者の学校参画への促進 (4)地域連携の推進 (5)肢体不自由教育部門設置に向けた教育環境の整備 【活動指標】 ○不祥事根絶研修としてミーティング及びコンプライアンス研修の実施(研修8回 ミーティング2回) ○「わかばクレドカード」の作成と啓発(1学期末までに作成配付) ○職場の同僚性を高めるオフサイトミーティングの実施(1回) ○教職員満足度調査の実施(2回) ○定時退校キャンペーンポスターの掲示(10回) ○設定した日の定時に退校した教職員の割合(90%以上) ○予定通り休養日を実施した部活動の割合(100%) ○放課後に開催した委員会・職員会議において60分以内に終了した会議の割合(90%以上) ○自分の業務に生成AIを活用した教職員の割合(80%) ○授業参観時における保護者アンケートの実施(3回) ○保護者アンケート(学校評価)の実施(1回) ○学校ホームページ等からの発信(10回) ○地域のイベント等への参加(2回) ○肢体不自由教育部門設置に向け課題解決のための検討会の実施(1回) 【成果指標】 ○毎回の授業参観後の保護者アンケートにおいて、「教職員の関わり方は適切であった」と回答した保護者の割合(80%以上) ○保護者アンケート(学校評価)において、「子どもが安心して学校へ通っている」と回答した保護者の割合(80%以上) ○教職員満足度調査において、「自分の仕事にやりがいを持っている」と回答した教職員の割合(80%以上) ○時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数</p>	<p>【活動指標】:未達成 ・コンプライアンス研修:14回実施 ・ミーティング研修:2回実施 ・クレドカード:配付 済 ・オフサイトミーティング:1回実施 ・満足度調査:2回実施 ・ポスター掲示:12回実施 ・定時退校教職員の割合:100% ・休養日設定の割合:100% ・60分以内会議の割合:100% ・AI活用の教職員割合:64%未達成 ・保護者アンケート:3回実施 ・保護者学校評価:1回実施 ・ホームページ:30回 ・地域イベント参加:2回参加 ・検討会:2回実施 キックイベント:1回実施 【成果指標】:達成 ・適切と回答した保護者の割合:100% ・安心と回答した保護者の割合:小学部 93% 中学部 87% 高等部 95% 全体 95% ・やりがいと回答した教職員の割合:98.4% ・360時間を超える教職員</p>	<p>※</p>

	(0人/91人) ○時間外在校等時間が月45時間を超える教職員ののべ人数(0人/91人) ○1人当たりの月平均時間外在校等時間(30時間以下 0人/91人) ○1人当たりの年間休暇取得日数(10日以上 91人/91人) ○生成Aを活用した教職員のうち「時間の短縮につながった」と感じた教職員の割合(80%以上)	: 0人(2月末時点) ・月45時間を超える教職員 : 0人(2月末時点) ・時間外在校時間が月平均30時間以下の教職員 : 0人(2月末時点) ・10日以上の休暇を取得した教職員:91人 ・短縮したと回答した教職員の割合:50% 未達成	
--	---	---	--

改善課題

<1 児童生徒の安全・安心の確保について>

- 防災ノートを活用した学習により、生徒の防災意識が高まり、避難行動の理解が深まった。
- 危機管理マニュアルを定期的に見直し、盗撮防止及び野生動物対策、雷などの項目を追加した。
- 熱中症防止対策では日々の呼びかけを徹底して行い、事故を防ぐことができた。
- 発作時対応訓練を児童生徒の状況に応じた内容で実施し、対応手順を確認できた。
- 文化祭において、朝ごはんメニューの動画上映や掲示を行った。児童生徒だけでなく保護者の方にも食育の大切さを直接啓発することができた。また、給食週間の取組を行うことで児童生徒の生活習慣改善への意識が高まった。
- 命を大切にす取組を発達段階に応じた内容で実施した。学校と家庭で協働した取組となるよう実施内容を保護者へ報告した。
- 担当の明確化と実施の確実性を高めるため、交通ルール指導、登下校指導、スクールバス乗車のきまり、SNSや消費者教育、防犯教育、薬物防止、自死対策などの生活教育・保健分野の学習が計画的に進められるよう整理する。各学部において「いつ・誰が・どこで・どの内容を実施するか」が一目で確認できるよう見える化を図る。
- 引き続き、地震・気象災害への備えや緊急対応訓練を継続し、児童生徒の防災意識をさらに高める。
- 教員向けの防災研修において危機管理マニュアルを確認する機会をもち、学校全体の安全管理体制をより実効性のあるものにする。

<2 特別支援学校センター的機能の充実について>

- 夏季公開研修会では、アサーショントレーニング（コミュニケーション）に関する内容の研修会を実施した。参加者より「自分も他者も大切にしたいコミュニケーションの大切さを学んだ」と肯定的な意見が多く寄せられた。実施後のアンケートでは、参加者の98%が「明日からの実践につながる」と回答した。
- 校内で実施したケース検討会議の集約を行い、校内支援における現状を把握し課題を整理した。
- 公開研修会は、実施場所や内容を工夫して実施することを検討する。
- 地域の教職員の方々に、玉城わかば学園を卒業した後の進路先や進路指導の流れについて知っていただく機会を提供する必要がある。

<3 学びを支える教育環境の整備について>

- 月に一度のコンプライアンス研修を継続的に実施し、法令遵守や倫理意識の定着を図った。
- 交通事故防止研修や啓発を行ったものの、教職員の交通事故が続いた。
- 行事の精選には至らなかったが、校外活動や校外学習の目的や実施方針を整理し、実施の改善に向けた基盤を整えた。
- 保護者の学校評価アンケートでは、初めてICT機器を活用して実施した。集計業務において大幅な時間短縮が実現した。保護者からの意見も活発に寄せられ、学校運営への参画意識が高まった。
- ホームページを更新し、学校の取組や行事情報を積極的に発信した。
- 地域行事「元気ですたまきまつり」や地域のサッカー教室に参加し、地域とつながる機会を持った。
- 度会特別支援学校とのキックオフイベント（整備に向けた顔合わせ会）を実施し、両校が互いに尊重しながら協働する意識が高まった。
- 引き続き、信頼される学校をめざした取組を進める。特に、教職員の交通安全対策をより実効性のある形で進める必要がある。

- 校外活動の整理を踏まえ、行事の目的・効果を明確化し、精選を進める。
- 保護者の学校評価アンケートの結果をもとに、保護者の意見を精査したうえで学校運営に反映し、引き続き双方向のコミュニケーションを図る。
- ホームページを活用し、学校の取組や成果をタイムリーに発信する。
- 地域イベントへの参加を継続し、児童生徒の社会参画の機会を広げる。
- 度会特別支援学校との協働業務を強化し、共同プロジェクトを実働段階へ移行させ、肢体不自由教育部門の円滑なスタートを実現させる。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p><学校経営では></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校のウェルビーイング」に社会参画の視点を正式に追記し、学校教育目標との整合性を図ってみてはどうか。 ・子どもによっては話すことが苦手な子どもがいるので、連絡帳・学級通信・デジタル配信を積極的に活用し、保護者への学校生活の様子や情報をより丁寧に提供してほしい。それが、学校と家庭との信頼関係につながると考える。 <p><教育内容では></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学びのリレー実現シート」は、児童生徒の実態と生活年齢をどう考えていくか校内で共通理解を図る必要がある。 ・教育課程が整理された。学びが1+1=2なるだけでなく、学びが横にも広がり1+1が3や4となるような教育活動の充実を期待している。 ・「単元年間シート」を作成し単元内容の見える化を進めてはどうか。 ・児童生徒の自己肯定感を育む教育をさらに推進してほしい。 <p><肢体不自由教育部門の設置や体制づくりでは></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度行動計画にある度会特別支援学校児童生徒の合同学習（交流）が形だけで終わるのではなく、令和9年度の教育課程において両部門の児童生徒と一緒に学ぶことができるような学習へつながってほしい。 ・すでに知肢併設校の伊賀つばさ学園や杉の子特別支援学校も参考にしてほしい。 ・職員室の配置は知的部門と肢体部門がうまくつながるような配置ができるとよい。 ・医療的ケアの手順や連携フローの整備を行う必要があるのではないか。
----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p><学校経営></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校のウェルビーイング」に社会参画の視点を明記し、学校教育目標との整合性を図りつつ、一貫性のある目標体系を確立する。また、学校の中核となる教職員との対話を充実させ、「三重県型マネジメントシステム」を有効活用し「めざす学校像の姿」の実現を図る。 ・連絡帳やデジタル配信等を活用して保護者へ学校生活の様子を丁寧に発信し、信頼関係のさらなる強化を図る。 <p><教育内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づき、「単元年間シート」を試行活用した指導内容の見える化と著作教科書を活用した実践を推進する。 ・人権カリキュラムを活用した人権学習に取り組む。引き続き、自己肯定感を育む教育を推進する。
<p>学校運営についての改善策</p>	<p><肢体不自由教育部門の設置・組織体制づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和9年度の設置を見据え、両校の教職員による学校運営の調整、児童生徒の合同学習および施設見学会等の計画を具体化し、年度後半を目途に実施する。 <p><地域連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事等への参加を促進し、地域に開かれた学校づくりと、児童生徒の社会参画を推進する。